

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：13902

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370725

研究課題名(和文)「読むこと」「書くこと」を統合的に指導する小学校英語教育のプログラム開発

研究課題名(英文) Program development for English education at elementary school - To teach "Reading" and "Writing" of the letters of the alphabet in an integrated way

研究代表者

高橋 美由紀 (TAKAHASHI, Miyuki)

愛知教育大学・教育学部・教授

研究者番号：30301617

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：グローバル化に対応した小学校英語教育の研究として、ヨーロッパ共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages)を基にして、中学年の外国語活動及び、高学年の英語教育において、「話すこと」「聞くこと」に加え、「読むこと」「書くこと」を含めた文字指導のあり方と「4技能の学習」を総合的に指導するためのカリキュラム開発についての研究を行なった。これらの研究から、2020年度から導入される新学習指導要領に対応し小学校現場で活用できるプログラムを構築した。また、子ども達の発達段階に応じた文字指導を統合的に指導できる教材作成にも参画した。

研究成果の概要(英文)：This study is a research on teaching "Reading" and "Writing" of the letters of the alphabet in English education lessons for elementary schools in Japan deal with the globalization.

For Foreign Language Activities in the third and fourth grades and in English education lessons for the fifth and sixth grades, we developed an integrated teaching curriculum for "four skills learning" of "reading" and "writing" including "speaking" and "listening" in addition to letters of the alphabet instruction based on the Common European Framework of Reference for Languages.

From these studies, we have developed a program that corresponds to the new course of study for teaching that can be used in the elementary schools from the 2020 school year. We also plan to develop teaching materials to assist the teaching of letters according to the developmental stages of children in an integrated manner.

研究分野：小学校英語教育

キーワード：小学校外国語活動 小学校英語教育 新学習指導要領 読むこと、書くこと等 4技能の統合的な指導  
ヨーロッパ共通参照枠 実践研究 プログラム開発

## 1. 研究開始当初の背景

2013年5月の教育再生会議において、「初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育を充実する」ために、「小学校の英語学習の抜本的拡充（実施学年の早期化、指導時間増、教科化、専任教員配置等）や中学校における英語による英語授業の実施、初等中等教育を通じた系統的な英語教育について、学習指導要領の改訂も視野に入れ、諸外国の英語教育の事例も参考にしながら検討する。」ことが掲げられた。これは、現在の小学校外国語活動を「英語教育」として教科とすることで、中学校の英語教育と同様に、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」などのコミュニケーション能力の基礎を育成することを目標とする方向性を示している。

学習指導要領によれば、小学校では、アルファベットに触れる段階にとどめ、「読むこと」「書くこと」の指導は、音声の補助として、「聞くこと」「話すこと」に関連を持たせた指導を行うことと言及されている。

高橋（2009）は、特区では英語のスキルを重視した教育を小学校でも行っているが、大半は中学校の先取り学習であり、初等段階の児童の特性を活かした文字指導、統合的な指導法ではなかった（科研費課題番号16202010）。したがって、小中の一貫した英語教育として、小学校で文字指導を導入したプログラムを考察することが必要である。また、高橋（2013）は、TOEFLの初等教育段階のテスト作成ワーキングメンバーとして参加し、英語の基礎能力テストには、音声だけでなく、文字指導、「読むこと」を含めて実施することを認識した。

これらのことから、高橋・柳（2012,2013）は、既に英語が「教科」として、小学校3年生から導入されている韓国の現状を調査した。韓国では、小学校英語教育が開始された時は、中学年は音声中心で行い、高学

年で文字を導入していたが、2009年度からは3年生から文字指導を導入し、「聴く活動」「話す活動」「読む活動」「書く活動」を総合的・統括的に指導している。その事例として、授業観察や教科書分析、指導者へのインタビュー等の調査から、日本の小学校の指導に示唆できる点を示しているが、これをさらに、韓国以外の国でも調査し、学年別に対応した文字の効果的な指導法、カリキュラム等のプログラムを構築したい。評価について、学習指導要領や文科省が提示している「評価規準」において、小学校で「外国語への慣れ親しみ」としている部分は、中学校では「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」としている。また、小学校で「言語や文化に対する気づき」の部分は、「言語についての知識」と「文化についての理解」としている。これらの評価規準には小中の繋がりが明確ではないため検討する必要がある（松浦2011）。また、評価についての具体的な内容も必要である。一方、Council of Europe(2002)による「ヨーロッパ共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages : CEFR）」は、初級から上級まで具体的に言語能力を技能別、能力別に分けて提示したものである。CEFRは、ヨーロッパ諸国の第二言語教育の発展に大きな影響を与えるのみならず、その枠組みは他地域でも検討に値する。日本においても英語教育の幅広い領域で活用が期待されている。そして、2013年3月には「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DOリスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」が出され、いよいよ本格的な活用が迫られている。投野・高橋他は（2011）「小、中、高、大の一貫する英語コミュニケーション能力の到達基準の策定とその検証」の研究において（科研費課題番号20242011）、CEFRが採用した「CAN DO リスト」形式に則

り、新たに策定された日本人学習者の英語到達度指標「CEFR-J」を作成し、レベル・スキル別に解説し、『CEFR-J ガイドブック』として著した。高橋は、「Pre-A1 レベル」(小学校外国語活動)と「A1 レベル」(中学校入門期)を担当した。また、高橋・柳(2011a)では、小学校で「外国語活動」ではなく、「英語教育」として導入されることを仮定して、「ヨーロッパ共通参照枠(CEFR)」を基礎にした評価規準について「話すこと」「聞くこと」の技能に関する記述を全て取り出し、小学校の外国語活動で行われている活動に当てはめてその難易度を並べ替え、より精密な評価規準を提案している。

グローバル化に対応した初等中等教育を通じた系統的な英語教育として、小学校で「教科」とすることを視野に入れるとするならば、「4 技能の学習」を統合的に採り入れ、これまでの内容をさらに発展させることが必要である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、小学校英語教育において、「ヨーロッパ共通参照枠(CEFR)」を基にして、教科化を視野に入れて「読むこと」「書くこと」など文字指導を導入し、4技能を統合的、総合的に指導するためのカリキュラム開発と CAN-DO リストによる評価のプログラムを構築することである。柳・高橋(2011a,b)は、言語全体を総合的に見通すシラバス開発が必要であることを指摘した(科研費課題番号 21520645)。また、投野・高橋他(2011)では、小中高大の一貫した英語コミュニケーション能力の到達基準の策定とその検証を行った(科研費課題番号 20242011)が、これらの研究をさらに発展させて、グローバル化に対応し、小学校英語教育の効果的な在り方と教育現場で容易に活用できるプログラムを構築す

る。さらに、これらのプログラムの実証研究に基づいた、教育実践への具体的な方法を提示する。

本研究の特色は、グローバル化に対応した小学校英語教育のあり方として、韓国等の諸外国の初等段階の英語教育と同様に、「教科」として英語を導入し、「英語のコミュニケーション能力を育成する教育」や「初等中等学校の系統性を重視した教育」の視点から研究を行うことである。

具体的には、(1)これまで中学校の先取り学習として行われてきた、文字指導、および「読むこと」「書くこと」について、児童の発達段階を考慮し、3年生から6年生まで各学年に応じた効果的な学習について検討する。(2)教科として英語コミュニケーション力を育成するためのシラバスを構築し、具体的な教材作成、さらに、その教材を使用して効果的な指導法等を検討し、提案する。(3)CEFR を基にした小学校英語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定の一連の開発を試みる。(4)中学校英語教育に円滑に繋げるための指導について、文字を中心にして4技能を統合的総合的に扱う方法等、日本の小学校での英語教育の明確なプログラムを提案する。

## 3. 研究の方法

はじめに、初等段階の「教科」としての英語教育において、文字をどこまで指導することが可能であるかを探る。また、同時に「4 技能の学習」についてもその可能性を探った。これは、日本においては、現在の小学校において、英語教育として文字指導を行っている学校及び中学校の英語教育の実態について調査した。また、母語教育、第二言語教育、外国語教育での文字指導を行っている各国の教材教具、教育内容、指導法、カリキュラム等の事例を詳細に収集し、日本の小学校に応用できる点を探った。

次に、小学校英語の「教科化」の視点から、中学校英語教育へ繋げるための小学校段階に効果的な「文字指導」さらには、「4技能の学習を統合的に扱う指導」について、3年生から学年別の段階的な指導法及び教材、カリキュラム、評価規準等について考察し、開発した。第三に、実践研究として、小学校で使用できる教材を試作して、その教材を使用した指導法と評価規準、評価方法を提案した。そして、実際に現場で使用してもらい、その効果について調査した。さらに評価については、学習者によって、実際に評価できることについて調査したが、今後の課題として、指導者別（担任教師、英語専科教員、ALT等）に、実際に評価できることについて調査し、今後の評価のあり方を提案したい。

#### 4. 研究成果

本研究を始めた平成26年度から終了後の平成28年度までに小学校の英語に対する教育政策が大きく変わった。新学習指導要領において、小学校英語は、中学年の外国語活動と高学年の英語教育（教科）として導入されることが決まった。そして、高学年の目標は、これまでの「聞くこと」「話すこと」等の音声中心の指導から、「読むこと」「書くこと」等を含めた4技能の習得によるコミュニケーション能力の基礎を育成することとなった。したがって、現在、小学校現場では、本研究の研究課題である「『読むこと』『書くこと』を統合的に指導する」ことが喫緊の課題となっている。

本研究では、実証研究に基づいて、教科化を視野に入れて、小学生の特質を活かした「読むこと」「書くこと」等の文字指導のあり方及びヨーロッパ共通参照枠（CEFR）を参考にして、CAN-Doリストによる評価の観点から、「読むこと」「書くこと」を含めた4技能を統合的、総合的に指導するた

めのカリキュラム開発を行うこと、さらに、これらのカリキュラムの指導の実際について、教材研究と評価を行うことを試みた。

研究成果としては、中学1年生の入学時に「小学校高学年のコミュニケーション能力」について、アルファベット文字等の「読むこと」「書くこと」の技能面とそれに対する意識、及び、外国語活動に対する意識の調査を行い分析した。また、「文字指導」「読むこと」「書くこと」の教材研究として、イギリスをはじめとする母語教育でのリテラシー研究、中国や韓国、シンガポール、ロシア等の外国語教育として低学年、中学年から英語教育を実施している諸国の教科書や教具、教材等の研究も行った。さらに、CEFRでの到達度と評価についての研究も、中国や韓国等の東アジア諸国と日本の小学校で実践研究を行った。

それらの結果を「中学校入学時の英語学習に対する意識及び英語能力について：小学校英語教育の成果を探る」や「小学校英語教育におけるCAN-Doリスト 中国の英語教育の到達度とCEFRを基にして」「中国杭州市における小学校及び中学校の英語教育」「外国語活動で養成された『聞くこと』『読むこと』の能力について グローバル化に対応した英語能力の測定」「ロシア連邦の学校教育と初等学校の英語教育の現状 『読むこと』『書くこと』の指導を中心に」「小学校英語教育を強化するには アジア諸国との比較」「『英語活動』から『英語教育』へグローバル時代の英語教育」「小学校英語教育における『読むこと』『書くこと』の指導：教材としてのStory（お話）」「小学校英語の教材開発」等の論文他に著した。また、教材として『シールでワーク英語絵じてん』の制作に携わった。さらに、国際学会での研究発表や招待講演等も多数行い、研究成果の発表を学会だけでなく、小学校現場でも行うことができた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

高橋美由紀・柳善和「小学校・中学校における英語による教科指導の実践—シンガポール日本人学校における事例研究を基にして」『中部地区英語教育学会紀要』第 46 巻 2017 年査読あり

高橋美由紀・柳善和「小学校英語教育における「読むこと」「書くこと」の指導：教材としての Story (お話)」愛知教育大学研究報告 第 66 巻 2017 年査読あり

高橋美由紀・大野智子・柳善和「外国語活動で養成された「聞くこと」「読むこと」の能力について—グローバル化に対応した英語能力の測定」『Bulletin of Aichi Univ. of Education』65 2016.pp. 131-144 査読あり

柳善和・高橋美由紀「中国杭州における小学校及び中学校の英語教育」『中部地区英語教育学会紀要』45 巻 2016 . pp. 265-272 査読あり

高橋美由紀「小学校英語教育を強化するには—アジア諸国との比較」『グローバル経営』第 394 巻 2015 . pp. 20-23 査読なし

高橋美由紀「英語活動から英語教育へ—グローバル時代の英語教育」『グローバル経営』第 388 巻 2015 . pp. 28-29 査読なし

高橋美由紀・柳善和「中学校入学時の英語学習に対する意識及び英語能力について：小学校英語教育の成果を探る」『外国語文学研究会』48 愛知教育大学 2015.pp. 1-20 査読なし

高橋美由紀・Zhu Wei「小学校英語教育における CAN-DO リスト - 中国の英語教育の到達度と CEFR を基にして」『日本児童英語教育学会』2014.pp. 93-112 査読あり

〔学会発表〕(計 43 件)

TAKAHASHI Miyuki and YANAGI Yoshikazu, Comparison of Chinese and Japanese English Education for Primary Schools: Focus on Reading and Writing, The 11<sup>th</sup> International Symposium on Teacher Education in East Asia, Central China Normal University, Wuhan, China, 2016 年 10 月 16 日

高橋美由紀「「話す・聞く・読む・書く」の 4 技能を統合的に育むために」小中高系統的英語教育推進事業 (招待講演) 2016 年 10 月 4 日 滋賀県守山市立明富中学校 (滋賀県・守山市)

高橋美由紀・柳善和「英語で発信できる能力育成について—ICT 機器を活用して」日本児童英語教育学会第 37 回全国大会 2016 年 6 月 19 日 東京家政大学 (東京都・板橋区)

高橋美由紀「新学習指導要領を踏まえた英語の授業」三河地区第 1 回授業力向上研修「英語指導者研修会」2016 年 6 月 15 日 ラ

イフポートとよはし (愛知県・豊橋市)

高橋美由紀「世界を感じながら英語を学ぶ子ども達でいっぱい！」公文教育研究会京滋奈事務局 (招待講演) 2016 年 4 月 24 日 公文教育研究会京滋奈事務局 (京都府・京都市)

高橋美由紀「グローバル化に対応した小学校低・中学年からの英語教育のあり方」英語教員スキルアップ事業研究会 (招待講演) 2016 年 2 月 8 日 彦根市旭森地区公民館 (滋賀県・彦根市)

高橋美由紀「グローバル化時代の英語教育—「読むこと」「書くこと」の指導を中心に」沼津市教育委員会小学校英語研修会 (招待講演) 2015 年 12 月 1 日 沼津市教育会館 (静岡県・沼津市)

高橋美由紀「小学校英語教育における CAN-DO リスト」外国語教育メディア学会中部支部研究大会 (招待講演) 2015 年 11 月 7 日 金沢学院大学 (石川県・金沢市)

TAKAHASHI Miyuki and Yanagi Yoshikazu, 'The Use of ICT in English Teaching for Children' 東アジア教員養成国際シンポジウム 2015 年 10 月 31 日 愛知県名古屋国際センター

高橋美由紀・柳善和「小学校英語教育の教科化につなげる「読むこと」「書くこと」の指導について—ICT 機器を活用して」日本児童英語教育学会 2015 年 10 月 25 日 昭和女子大学 (東京都・世田谷区)

高橋美由紀「これからの外国語活動 - 豊かな表現力を持つ子どもをめざして」桑名市教育研究所 (招待講演) 2015 年 8 月 27 日 桑名市中央公民館 (三重県・桑名市)

高橋美由紀「小学校高学年における教科化に向けた外国語教育の実践へ向けて」小中連携外国語活動指導者スキルアップ講座 (招待講演) 2015 年 8 月 25 日 小野市コミセンおの (兵庫県・小野市)

柳善和・大野直子「「読むこと」の指導における小中英語教育の繋がり」小学校英語教育学会 2015 年 7 月 25 日 広島大学 (広島県・東広島市)

高橋美由紀「英語教育における CAN-DO リスト」岡崎市英語部 授業力・教師力アップセミナー (招待講演) 2014 年 7 月 30 日 岡崎市南部市民センター (愛知県・岡崎市)

高橋美由紀「教科化を見据えた小学校外国語活動の指導」福井県嶺南教育事務所研修講座 (招待講演) 2014 年 6 月 17 日 嶺南教育事務所 (福井県・小浜市)

〔図書〕(計 3 件)

都築繁幸・高橋美由紀・子安潤他『教科書を創る』愛知教育大学出版会 2016 年 208 ページ

高橋美由紀 (編集協力)『くもんのシールでワーク 英語絵じてん』くもん出版 2016 年 79 ページ

高橋美由紀・柳善和 (編著)『小学校英語

6. 研究組織

(1)研究代表者

高橋 美由紀 (TAKAHASHI Miyuki)  
愛知教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：30301617

(2)研究分担者

柳 善和 (YANAGI Yoshikazu)  
名古屋学院大学・外国語学部・教授  
研究者番号：40220181